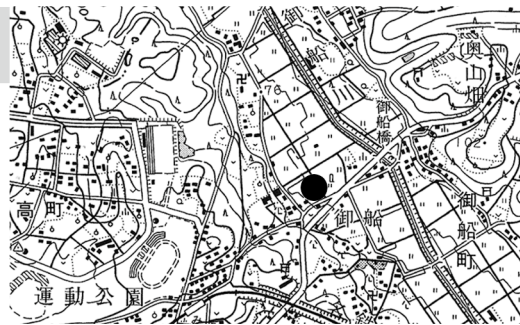


みふねじょう  
御船城跡

所在地 豊田市御船町地内  
調査理由 東海環状自動車道建設  
調査期間 平成 13 年 4 月～平成 13 年 8 月  
調査面積 3,570 m<sup>2</sup>  
担当者 竹内 睦・鈴木 裕・成瀬友弘・武部真木



調査地点 (1/2.5 万「豊田北部」)

**調査の経過** 調査は国土交通省名四国道工事事務所による東海環状自動車道の建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成 13 年 4 月から平成 13 年 8 月にかけて実施した。農業道路を隔てて、調査区を A・B・C の三区に分けて実施した。

**立地と環境** 御船城跡は、豊田市の北部、藤岡町との境にある御船町に所在する。矢作川の支流である御船川の周辺にできた狭い沖積地と洪積台地の境にあたるような場所にあり、現在は水田となっている。調査区から周辺を見渡すと、現在の集落が少し丘陵をあがった所に立地している。調査区は、地籍図により推定される御船城跡の南西側にあたり、地籍図によれば城跡の南西側に展開する方格地割部分にあたる。

**調査の概要** 今回の調査は、3,570 m<sup>2</sup>を A・B・C 区の三区に分けて調査を行った。B 区の出土遺物は水田耕作土層とその直下にある遺物包含層に含まれている。混入した近世や近代の陶磁器を除いて、中世後半段階から戦国時代にかけての陶器が中心であり、山茶碗、小皿、陶丸、灰釉皿、鉢、天目茶碗、擂鉢、土師器の皿、土師器の鍋、青磁の碗などの小さな破片等が出土している。A 区は地形的には微高地上にあり、耕作土直下が赤褐色の地山面となっており、溝、土坑等を検出しているものの遺構、遺物は全体的に乏しく、御船城との関連性を見出せるようなものは確認できなかった。農道を隔てて調査区の東側にあたる C 区は、地籍図から推定しても、御船城の中心に近い位置と考えられる。C 区の中央部から幅約 6 m 程の溝 (S D 04)、東トレンチ際に井戸が検出されている。また、東トレンチから中世後半から戦国期の鍋、茶碗等の遺物片が比較的多く出土しているものの、いずれも城との関連性を示すまでには至っていない。

(鈴木 裕)



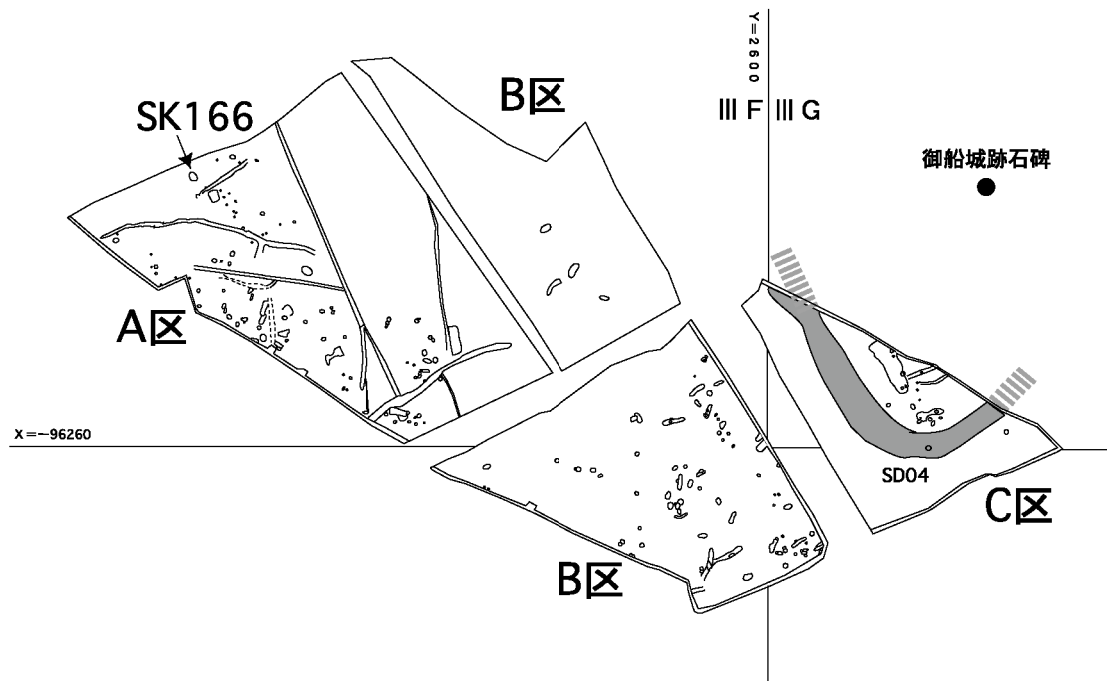
調査区全景 (北西から)



SK166 遺物出土状況



調査区全景（南東から）



主要遺構図（1：1000）